



新しい風と共にバージョンアップ！

今回みみタロウは、学校で外国人生徒の支援をしておられる由利リンさんにお話を伺いました。



ベトナムの外国語
大学で英語を専攻し、
第二言語で日本語を
勉強していた時、
ガイドのアルバイトで
日本人の夫との出会
いがあり、結婚。夫が
ベトナムに赴任して
いた6年間に二人の

子どもが生まれました。その後一家で来日し、能登川で10年間暮らし、その間、子どもの幼稚園の送り迎えを通して友達が増え、また三人目の子どもも生まれました。そして上の子が中学を、真ん中の子が小学校を卒業し、末っ子が3才の時、夫の転勤に伴って、8年間、オーストラリアで過ごすことになりました。そして今年、真ん中の子が大学に入ったのを機に、末っ子を連れて再び3人で滋賀に戻ってきて、近江八幡で暮らしています。帰国を決めたのは、そろそろ日本で落ち着いて暮らしたいという思いと、上の子たちが日本とオーストラリアの両方の教育を受けられ本当に良かったので、下の子にも日本語を学ばせ、日本で教育を受けさせたいという思いがあったからです。

子どもたちの学校を通して、日本とオーストラリアの教育に触れることになり、その違いを感じています。オーストラリアの教育で素晴らしいのは、子どもを型にはめず、独創性や自分で考える力を育てる点です。美術の授業に例えれば、日本ではお手本があって、それに沿って評価がありますが、オーストラリアでは、「これで好きなものを作りなさい」と子どもの自由に任せるので、奇想天外なものや下手なものが一緒に並んでいるといった具合です。また小学生の頃から、「あなたは何になりたいのですか？ そのためには何をすることが必要で、今日はそのために何をしましたか？」と子どもに問いかけ、子どもが自分で考え実行することを促していきます。子ども

はのびのびするのですが、反面、教育環境が緩く、しっかり教育できないようにも思いました。一方日本では、質の高い教育がありますが、細かい決まり事が多く、子どもは管理され、窮屈だと思えます。また団体行動が多いからか、同調圧力があり、子どもが周りを気にして自分を抑えてしまいます。こうしたことから、どうにか双方の良い点をうまく合わせた教育ができればいいのに、と思っています。そして、子ども達には周りへの気遣いを忘れず、自分の意見をしっかりと持って進んでほしいです。

私は今、小中学校で英語とベトナム語で外国人生徒の支援をしています。私自身、上の子どもたちの時には子どもを学校に任せっぱなしにしていたのですが、多少子育ての経験ができ、今は学校と一緒に子どもを育てる気持ちを持つことがとても大切だと思っています。「忙しいから」、「わからないから」、と放っておかずに、子どもが学校から持ち帰るものなどを通して学校での子どもの状況をフォローすることや、親自身が日本文化を勉強して、子どもが過ごす環境を理解することが、異なる文化の中で育つ子どもを支えるのに大切です。外国人の親が日本の学校のことを知らないのは当たり前です。ですから決して恥ずかしがらずに先生に質問し、自分の考えを丁寧に伝え、先生に子どもや家庭のことをよく理解してもらいましょう。そして学校には、新しい時代に向けて、もっとオープンで楽しい場所になるよう期待しています。私も翻訳や通訳を通して、子どもと親と学校に沢山の理解を届けられるよう、お手伝いしていきたいです。

日本社会には素晴らしい伝統文化がありますが、中には時代に合わなくなったものもあります。皆がもっと幸せになれるように、良いものを大切にしつつも現状に合わせてどんどん新しいものを取り込んで、親も学校も社会みんなでバージョンアップしていきましょう！